

令和 7 年度

徳島県立川島中学校

# 学校評価指標と活動計画

このたび令和 6 年度「学校評価結果」を踏まえ、令和 7 年度「学校評価」を作成しました。

本年度は、この「学校評価」の「評価指標」及び「活動計画」に基づき、教育活動の充実・発展に努めます。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	
(1) 中高一貫教育の推進	<p>① 中高連携の促進に努め、生徒の個性や能力を伸長するとともに、異年齢集団における社会性の育成に努める。</p> <p>② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。</p>	評価指標	<p>① 「中高合同で実施された行事は高校生との交流を深めるのに役立っている」と回答する割合が生徒・保護者ともに85%以上をめざす。</p> <p>② ・「中学校の先輩や高校生の姿を見て、学校生活の見通しや目標をもつことができる」と回答する生徒の割合が85%をめざす。</p> <p>・「6年間を見通した特色のある教育を行っていると思う」と回答する割合が85%以上をめざす。</p>
		活動計画	<p>① ・中高合同の教科会や中高相互の授業見学を通して、学びの縦のつながりの連携を図る。また、「先輩から学ぶ」や「スペシャルアプローチ（SA）」を実施し、中学校から高校へ円滑な移行ができるようにする。</p> <p>・めざす生徒像や昨年度のアンケート結果をもとに、中高連携の学校行事をより充実させる。</p> <p>② ・中高一貫教育推進委員会を定期的実施し、中高合同で行う行事や中高の連続性の指導のあり方について検討する。</p> <p>・総合的な学習の時間を6年間を見通した探究活動になるよう、中高の連携を強化する。</p>

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	
(2) 確かな学力の充実と指導力の向上	① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。 ② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。 ③ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の研究を推進する。	評価指標	① ・「学習活動に目標をもって計画的に取り組んでいる」と答える生徒、保護者の割合が80%以上をめざす。 ・「至誠ノートで計画や日々の振り返りができた」と答える生徒の割合が80%以上をめざす。 ② ・「中学校の授業は、わかりやすく工夫されている」と答える生徒の割合が85%以上をめざす。 ・「6年間でしっかりとした学力を身に付けることができる」と答える生徒、保護者の割合が85%以上をめざす。 ③ 「单元ごとにICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びのある授業を1回以上実践できた」と答える教員の割合が85%以上をめざす。
		活動計画	① ・個別面談や学習時間調査を定期的に行い、生徒理解に努める。 ・朝の学習の時間に各教科の基礎問題に取り組み、基礎学力の定着を図る。 ・至誠ノートに学習計画や日々の記録を記入させる。 ・生徒が自らの学びを計画できるように支援を行う。 ② ・中高でめざす生徒像「ARATAE-Ability」の共通理解を図るとともに、生徒と共有する。 ・教員相互の授業見学週間や中高合同教科会を実施し、教員の指導力向上に努める。 ③ ・生徒の学びが深まるよう、ICTの効果的な活用や、意見交換において思考が深まる手立てを行う。 ・各教科における学習内容を教科横断的に学び、主体的に探究することのよさや、課題解決に向けて協働することのよさに気付けるよう、教科会や学年会等で共通理解を図る。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	
(3) 生徒の能力・適性に応じたキャリア教育の実現	① 進路指導の改善・充実を図り、進路に向けての意欲を高める。  ② 三者面談・年次P T Aなどにより保護者との連携強化に努める。	評価指標	① 「他学年との交流から学べることは、自身の学校生活に役に立つ」について、肯定的回答が85%以上をめざす。  ・『フューチャー』でのキャリア教育や、発達段階に応じた体験活動が進路選択に役立つ」についての肯定的回答が85%以上をめざす。  ② 「進学説明会や面談が将来を見据えた進路を考えるうえで役立つ」についての肯定的回答が85%以上をめざす。
		活動計画	① ・スペシャルアプローチ(S A)や先輩から学ぶなどの併設高校と交流する機会の充実や進路講演会を設けたり、各種検定に目標をもたせて取り組ませたりすることで、6年間を見通した学校生活の目標や将来の進路に向けた意欲をもてるよう細やかな進路指導に努める。  ・総合的な学習の時間において様々な体験学習を取り入れ、将来への展望をもたせるとともに、持続性・発展性をもたせて構成し、生徒の能力や適性を伸ばしていく。  ② 各学期において、P T A年次会や二者面談・三者面談などの面談週間を設定し、将来の進路を見据えて生徒や保護者の個別相談に応じる。そして、川島高校の授業の様子や卒業後の進路の状況を教員がしっかりと把握し、丁寧に伝える。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	
(4) 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。  ② あらゆる教育活動を通して、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめの防止等の取組に努めるとともに教育相談活動の充実を図る。	評価指標	① ・校則や交通ルールの遵守をめざし、85%以上が「交通ルールを守れている」と回答できるようにする。また、登下校時の交通事故ゼロに努める。  ・「あいさつをよくしている」との回答を85%以上とする。  ・「家庭でルールを話し合い、携帯電話を正しく使っている」との回答を85%以上とする。  ② 「いじめ等がなく安心・安全に学校生活を送れている」との回答を、85%以上とする。
		活動計画	① ・3年生による生活オリエンテーションを実施し、学校や社会のルールやマナーを守ることが、互いにとって気持ちのよい安全な生活につながることを確認させる。また、徒歩・自転車・JR・保護者送迎通学等、それぞれの通学状況に応じた交通安全指導や下校指導を行い、登下校時の事故防止について啓発する。  ・教員が率先してあいさつすることにより、生徒相互や教員・保護者等の来客者に対してあいさつすることのよさを実感させるとともに、各学期において生徒会役員を中心にあいさつ運動を実施する。  ・教科指導における活用の中で、また携帯電話利用安全教室等の外部講師による講習会や生徒会による啓発活動を行い、情報モラル教育の推進に努める。  ② 生活に関するアンケートの実施や「至誠ノート」の記述からいじめの早期発見に努めるとともに、いじめ防止対策委員会の活動の活性化を図る。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	
(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進	<p>① 人権尊重の視点に立った学校づくりを推進し、人権問題としてとらえ、解決に向けて行動できる生徒の育成に努める。</p> <p>② 互いのよさや個性を認め合い、互いに学び合える学習生活を送る。</p> <p>③ 人権委員会の活動や家庭での連携に取り組む。</p>	評価指標	<p>① 「人権学習に積極的に取り組んでいる」と思う生徒の割合が85%以上をめざす。</p> <p>② 「人権の大切さを学び、それを日常生活に生かそうとしている」と思う生徒の割合が85%以上をめざす。</p> <p>③ 「人権を大切にする教育活動が行われている」と思う保護者の割合が80%以上をめざす。</p>
		活動計画	<p>① ・ 県人権教育推進方針に沿って、同和問題の解決に向けた取り組みをはじめとする様々な人権学習を自ら実践し、あらゆる人権問題の解決に向けて取り組む。また、第三者機関の視点に立った学校づくりを推進する。</p> <p>・ 生徒一人一人が大切にされる授業の実践に向けて、教職員の授業検討会や学年・ごとの授業検討会を行い、教員の人権意識・指導力向上に努める。</p> <p>② 教育活動全体を通して、人間関係づくりや意見交換の機会を設け、自分や他人の権利を尊重し、自己の権利や態度を身に付け、人権意識の学習を日常生活に生かすように実践していく。</p> <p>③ ・ 人権委員会を中心とした毎月の「人権の日」の放送や人権コーナーの設置、校内人権問題意見発表会の開催等の啓発活動を通じて、学校生活全体において人権が尊重され安心して過ごせる環境づくりに努める。</p> <p>・ 人権のつどいや人権教育講演会の周知を Microsoft Forms 等を活用しながら行い、各家庭からの参加を募る。また学校で行っているPBSやエンカウンターなどの自尊感情を高める取り組みを、面談やホームページ等を通して家庭に周知し、家庭でも同じような取り組みができるように促す。</p>

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	
(6)心身ともに健康な生徒を育てる特別活動等の充実	① 学校行事、生徒会活動を通じて生徒の自主性の育成に努める。  ② 学級活動や部活動のより一層の充実と活性化を図る。	評価指標	① 「学校行事に積極的に参加している」と思える生徒を80%以上とし、保護者の理解も80%以上得られるようにする。  ② 「3年間を見通した体験学習が、豊かな心を育むために役立っている」と思える生徒、保護者を80%以上にする。また、中高が連携した部活動指導が行えるよう、教員同士が積極的に情報共有する。
		活動計画	① ・ 生徒や教員アンケートから出た学校行事等の目的や運営のあり方を、生徒会を中心として見直し、生徒が主体性をもって参加できる活動を通して、生徒の自主性の育成に努める。  ・ 生徒会専門委員会を毎月開催し、学校をよりよくするための活動計画を立てたり、振り返りを行ったりして生徒の自主性を尊重した生徒会活動の活性化を図る。  ② ・ 中高が連携した部活動指導が行えるよう、日程調整を図る。  ・ 学校生活や学級などの身近な課題について話し合う時間を設定し、合意形成の大切さを理解させるとともに、一人一人の意見が尊重され安心して発言できる雰囲気づくりに努める。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	
(7) 環境教育及び国際理解教育の推進	<p>① とくしま G X スクールの認定を機に、環境保全活動に対する意識の向上に努める。</p> <p>② 異文化理解と語学力の育成に向け、積極的に国際交流を図る。</p>	評価指標	<p>① 「日頃の清掃活動に熱心に取り組み、ゴミの分別等に努め、環境美化を心がけている」と回答する生徒の割合が85%以上をめざす。</p> <p>② 「外国の言語や文化にふれ、視野を広げるのに役立つ国際交流事業を行っている」と思える生徒が85%以上となるようにする。</p>
		活動計画	<p>① ・ 環境委員会や S D G s 部による啓発活動を通して、身の回りの課題に気づき、清掃やリサイクル活動に取り組む。</p> <p>・ 環境委員会が中庭花壇の水やりを当番制で行ったり、部活動後の生徒昇降口の清掃活動と呼びかけたりして、校内の美化とともに全校生徒の環境美化に対する意識喚起に努める。</p> <p>② 異文化交流会の企画や、総合的な学習の時間の「グローバル」の授業、大阪・関西万博への校外学習を通して、留学生をはじめとする海外の方と交流する機会を定期的に設け、異文化理解と語学力の育成に努める。</p>



重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	
(8)開かれた学校づくりと安全教育の推進	①地域貢献活動などの活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実、地域との連携を深め、外部評価結果を生かす取組を推進する。  ②地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努め地域防災を担う人材を育てる。	評価指標	①・「参観日やオープンスクールを通して、学校の特色が伝わっている」と思う保護者の割合が80%以上をめざす。「学校外の方との交流の機会が多く設けられている」と思う生徒の割合が80%以上をめざす。  ・「ホームページは、学校の広報活動に役立っている」と思う保護者の割合が80%以上をめざす。
		活動計画	②防災避難訓練に真剣に取り組んでいる生徒の割合が80%以上をめざす。
		評価指標	①・地域や高校と連携した取組、外部講師を招聘しての授業や体験活動など特色のある教育活動を計画的に実践し、参観日やオープンスクール、ホームページ、メール等で広報する。  ・本校の特色のある教育活動がわかるスクールガイドやPTA広報紙「絆」を作成し、家庭や地域、小学校等の関係機関に配付するとともに、学校の魅力が伝わるホームページの充実を図るため、すべての教員が発信・更新できるよう研修に努める。
		活動計画	②・校内の防災避難訓練の事前・事後指導を行うとともに、総合的な学習の時間に外部講師や高校生のファシリテーターによる防災学習を実施し、防災意識の高揚と災害時における人権問題を仲間と解決していこうとする態度を養う。  ・近隣の学校に防災フィルムを貼りに行ったり、地域の方と防災避難訓練を実施したりして、地域と連携し、地域の防災を担う人材を育成する。